

福島への手紙

一枚はあなたに、もう一枚は大切な人に。

ひとりじゃないよ
という
気持ちをこめて。

② 福島がいま

放射線量「年20mSv」とは、学校等の屋外で活動できる目安であり、計画的避難区域に入る基準と国が定めたものです。しかし、それは原発労働者が白血病になった際、労災認定されたほどの高い値です。

とくに成長期にある子供は、放射性物質による「内部」被ばくへの健康被害も受けやすいので、国の基準撤回を求める声も国内外からあがっています。

法律上で18歳未満の労働が禁じられている「放射線管理区域」0.6μSv/hの6倍近い値でもあります。

※1sv=1000mSv(ミリ)、1msv=1000μSv(マイクロ)
これにh(毎時)がつくと、一時間あたりの放射線量を表します。

※下のグラフは「外部」被ばくをあらわしています。



Fig. by @gadriniumさん
@syupremeさん
http://forourchildren.info/?p=30

東電原発事故による被ばくを少なくしたい会
文責: 足田香澄 ikasumi0@gmail.com twitter: @ikasumi0

福島市の放射線量一例。
あなたや家族はどれくらい被曝していますか。

①「逃げる」ではなく「おいで」

私達は無責任に逃げろと言うつもりはありません。人は根なし草で生きているわけではないから。タンポポみたいに深く深く根を張った豊かな生活であればあるほど、簡単に動いたりできないかもしれないから。

ただ伝えたいことは、とにかく一緒に被ばく量(とくに子ども)を少なくする未来を考えたいということです。全国で色んな形で「おいで」「お手伝いしたい」と沢山の人が動いています。

③ 少しずつ動こう

「危険」か「安全」かの問題ではなく、とにかく被ばく量を少なくすることが子どもや自分を守るために重要です。

1. ショートステイ(夏休みの間、子供だけ移住。様々な取り組みがあります)
2. 移住をする(家賃無料、就労支援がある自治体もあります)
3. 自衛をする(学校・地域除染、マスク支給、汚染されていない食べ物を求める活動も)
4. 勉強会・講演会(子どもたちを放射能から守る・福島ネットワークなど)
5. 子どもや家族や周囲に説明する(このチラシを張ったり、ネットの動画を見せたりして、皆で子どもを守りましょう)

④ 各地とのつながり

各地から「おいで」「話そう」「お手伝いしたい」の声がたくさんあがっています。

・避難先一覧(別途添付)《様々な形の避難形態があります》

◎ インターネット

- ・「PORTAL311 被災者支援ポータルサイト」 <http://portal311.jimdo.com/>
- ・「Moms to Save Children from radiation」
- ・twitter @savefukushimaa さん
- ・mixi「被曝から子供達を守る～繋ぐ命～コミュニティ」
- ・Facebook 「福島の子どもたちを守ろう」

◎ 全国のお母さんたちの声

あなたはひとりじゃないです。一緒に少しずつ動いていきましょう。ストレスをためないで。自分にも優しくしてください。

キリトリ

福島への手紙

一枚はあなたに、もう一枚は大切な人に。

ひとりじゃないよ
という
気持ちをこめて。

② 福島がいま

放射線量「年20mSv」とは、学校等の屋外で活動できる目安であり、計画的避難区域に入る基準と国が定めたものです。しかし、それは原発労働者が白血病になった際、労災認定されたほどの高い値です。

とくに成長期にある子供は、放射性物質による「内部」被ばくへの健康被害も受けやすいので、国の基準撤回を求める声も国内外からあがっています。

法律上で18歳未満の労働が禁じられている「放射線管理区域」0.6μSv/hの6倍近い値でもあります。

※1sv=1000mSv(ミリ)、1msv=1000μSv(マイクロ)
これにh(毎時)がつくと、一時間あたりの放射線量を表します。

※下のグラフは「外部」被ばくをあらわしています。



Fig. by @gadriniumさん
@syupremeさん
http://forourchildren.info/?p=30

東電原発事故による被ばくを少なくしたい会
文責: 足田香澄 ikasumi0@gmail.com twitter: @ikasumi0

福島市の放射線量一例。
あなたや家族はどれくらい被曝していますか。

①「逃げる」ではなく「おいで」

私達は無責任に逃げろと言うつもりはありません。人は根なし草で生きているわけではないから。タンポポみたいに深く深く根を張った豊かな生活であればあるほど、簡単に動いたりできないかもしれないから。

ただ伝えたいことは、とにかく一緒に被ばく量(とくに子ども)を少なくする未来を考えたいということです。全国で色んな形で「おいで」「お手伝いしたい」と沢山の人が動いています。

③ 少しずつ動こう

「危険」か「安全」かの問題ではなく、とにかく被ばく量を少なくすることが子どもや自分を守るために重要です。

1. ショートステイ(夏休みの間、子供だけ移住。様々な取り組みがあります)
2. 移住をする(家賃無料、就労支援がある自治体もあります)
3. 自衛をする(学校・地域除染、マスク支給、汚染されていない食べ物を求める活動も)
4. 勉強会・講演会(子どもたちを放射能から守る・福島ネットワークなど)
5. 子どもや家族や周囲に説明する(このチラシを張ったり、ネットの動画を見せたりして、皆で子どもを守りましょう)

④ 各地とのつながり

各地から「おいで」「話そう」「お手伝いしたい」の声がたくさんあがっています。

・避難先一覧(別途添付)《様々な形の避難形態があります》

◎ インターネット

- ・「PORTAL311 被災者支援ポータルサイト」 <http://portal311.jimdo.com/>
- ・「Moms to Save Children from radiation」
- ・twitter @savefukushimaa さん
- ・mixi「被曝から子供達を守る～繋ぐ命～コミュニティ」
- ・Facebook 「福島の子どもたちを守ろう」

◎ 全国のお母さんたちの声

あなたはひとりじゃないです。一緒に少しずつ動いていきましょう。ストレスをためないで。自分にも優しくしてください。